

学校法人 相愛学園

理事長 相田 芳久 様

令和6年度

学校関係者評価委員会 活動報告

学校関係者評価委員会 代表

渡邊 徹

令和7年3月14日

令和6年度

焼津幼稚園 学校関係者評価委員会

□ 本日の出席者

渡 邊 徹	委員長	(学識経験者)
松 永 美津代	委員	(学園 監事)
久保山 秀美	委員	(学園 評議員)
新 村 弘 道	委員	(焼津市立焼津南小学校長)
植 野 ゆ か	委員	(焼津南保育園長)
高 田 祐 次	委員	(保護者)
法 月 麻里江	委員	(保護者)

以上 7 名

□ 本日の日程

10 : 30	年間事業概要と園内自己評価結果の報告
11 : 10	園内環境見学・保育見学
12 : 00	昼 食 ( 給食試食 )
12 : 30	関係者委員 協議
13 : 00	協議内容のまとめ
13 : 20	終了・解散

# 令和6年度学校関係者評価委員会

## 自己評価内容のまとめ

### □ 教育目標

『明るく心豊かに』を建学の精神として、4つの目標を掲げ、それらを達成すべく独自の教育課程のもとに年間指導計画を立案し、日々の保育に精進する。

#### 教育の4つの柱

- 1、じょうぶなからだに
  - 2、いのちをたいせつに
  - 3、やるきのあるこに
  - 4、よくかんがえるこに
- ・ 体験を通しての学びを中心とした総合的な生活環境の構築を進め、幼児期に身につけたい発達課題の達成を目指す。
  - ・ 情操の陶冶を主眼におき、感性の育成をねらったの造形教育、音楽教育や健全な心身の育成をねらったの体育指導、野外あそび、自然体験を園生活の軸とする。

### □ 本年度の重点目標

- ① 遊びが充実するための保育室環境について、工夫し実践する。
- ② 生活や遊びを通して、子どもの体幹を育てていく。
- ③ 幼児、保護者ともに安心な園生活を送ることができるよう環境を整え、感染対策や防災について計画や振り返りを心がける。

### □ 自己評価結果について

評価項目	自己評価	
	評価	取り組み状況・反省と改善策
① 本園での活動や行事が、幼稚園教育要領、本園教育課程や幼児の発達に即した内容、方法によって、適切に計画性をもって運営されているか。また、主体性を育むことを念頭において指導・援	B	・年度初めには、クラス担任以外の教職員も含めた全員で重点目標についての理解や大切にしていくこと等について共有する研修を実施し、共通理解を図るよう心掛けた。 ・園内研修のテーマとして、①室内遊びが充実するための保育室の環境について②昨年から引き続いて、こどもの体幹を育てるという2つのテーマを設定した。①のテーマについて、各クラス園内公開保育を行い、視点に沿って環境設定や保育者の援助等について研修を進めた。マンネリ化しがちな室内あそびの環境を考えるきっかけとなった。②昨年からの継続となるが、その年に

<p>助の工夫や環境設定、特に園庭環境についての工夫がなされたか</p>		<p>よって子どもの課題が違うこともあり、子どもの様子に合わせて取り組みを変える必要があった。今後も継続していく必要があることを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続してテーマに沿って各クラス間での園内公開保育研修をも実施した。</li> <li>・学期末の振り返りや教育行事の事前事後研修に加え、教育課程の見直しも実施。研修の時間を作ることが難しくなっている中、研修の進め方等も工夫しながら進めていきたい。</li> </ul>
<p>② 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切に、保育者それぞれが、個に応じた指導・援助を工夫していたか</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、入園の時点での子どもの育ち、表れに幼さを痛感し、基本的な生活習慣の指導に重きをかけざるを得ず、今の子どもの姿に合わせて教育課程等の見直しも必要となり、難しさを感じている。子どもの思いに寄り添い、主体性を育む観点からも、子どもの表れを否定しない言葉を使うよう気を付けてきてはいるが、表れによっては反省が残ることもあった。そのような中でも、大切にしたいことについては共通意識をもって過ごせるようにしてきた。幼児期にふさわしい遊びや生活の中でこそ、自分の思いや感じ取りを表現できるであろうと考え、今後も工夫して実践していきたい。</li> <li>・担任のみでなく職員全体で一人一人の子を理解するよう努め、情報共有が出来るよう心掛けている。場合によっては級外保育者が援助するよう進めてきた。</li> <li>・個別の援助を必要とする子が増えている現状の中、外部の専門機関とも連携しながら進めている。県私幼の子育て支援カウンセラー派遣事業や市の巡回相談、保育所等訪問支援事業等も活用し、外部の専門員とも情報交換しながら支援にあたっている。家庭環境も様々で、家庭での育ちが気がかりな様子もあり、保護者とも必要に応じて面談の機会を設けてたり働きかけたりしてきているが、子どもの育ちについて理解を共有することが難しい。外国籍の保護者との連携についても、丁寧に行っているが伝わりにくさを痛感する。</li> </ul>

<p>③ 防災や保健衛生、特に感染予防が求められる中、子どもや保護者にとって、安心、安全な環境となっていたか</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練については、毎月実施、主に津波避難に特化した訓練、火災訓練では火災による避難訓練（通報、消火、避難総合訓練を実施）と消防署が実施する花火教室を経験した。</li> <li>・交通安全指導員による交通教室を1学期に実施。加えて年長児は1月にも就学前の交通教室を実施し、雨の日の道路の歩き方等を練習した。</li> <li>・学園の養護教諭の指導の下、子どもの健康管理について配慮をしてきた。年長児の視力検査については、通常の検査とは別に就学前に再度経験するなどの対応を行っている。</li> <li>・今年度は大きな感染症の流行はなかった。今後も状況に合わせて保護者へ文書で知らせると共に、感染予防については機に応じて啓蒙を図っていきたい。</li> <li>・ヒヤリ・ハットの記録を年間通して実施。日々の報告に加え、定期的に確認し合い、必要に応じて環境チェックを行った。また、毎月の職員による遊具点検、年度末の専門業者による点検を実施した。</li> </ul>
--	----------	---

□ 協議・評価の観点

1. 幼稚園での活動や行事が、幼児の発達に即した内容・方法によって適切に運営されているか

保育者の援助や環境設定が、子どもの生き生きとした姿や主体性を育むことにつながっているか

(評価項目①)

2. 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切にし、個に応じた指導・援助が効果的に実施されているか

(評価項目②)

3. 防災や感染症への対応がなされ、子どもや保護者にとって安心、安全な園生活となっているか

(評価項目③)

□ 学校関係者評価委員会の評価・意見 □

観点1についての評価

- ・発達段階に応じた確かな保育が行われている。
- ・“自分でできることが増えた”“伝えたいことを言葉で言えるようになった”“なんでも自分でやってみたい意欲が強くなった”など、主体性が育っている。教師一人一人が『指示を減らして子どもの可能性を信じる』を意識していること、長年の積み上げで教師集団が共通理解、共通意識をもっていることの2点が、積極的な保育を生み、個を育てている。

評価 : A

観点2についての評価

- ・親が教師を信頼する、教師が親を信頼する、という両者の関係が良好に行われ、その上に立って個々の子どもに接する豊かな保育が行われている。“迷いが生じたら先輩に指導を仰ぐ”この好循環が個を育てている。
- ・はり絵の展示からも、作品が個性的であることがわかる。その子なりの工夫が見事である。

評価 : A

観点3についての評価

- ・防災ヘルメットがすぐ手に取れる所に配置されている工夫があり、訓練も定期的に行われている。
- ・遊具についても、高さが高いものがなく、園庭に意図的に配置されていて安心して遊べる。定期点検も行われている。専門業者も入っており、保護者も安全への園の努力を評価している。
- ・感染予防についても、家庭と連絡を密にしている。

評価 : A

その他の特記すべき事項として（園からの反省・課題を含む）

- ・『小一の壁』を取り除くべく、小学校が意図的に働きかけてくれている。ありがたいことである。
- ・PTA役員のなり手、決め方等に課題があり検討が必要 など

以上、学校関係者評価委員会の評価報告と致します。

学校関係者評価委員会 委員長

渡邊 敏